

仙台城跡関連年表 (1)

西暦	和暦	主な出来事
	(縄文時代)	本丸跡の発掘調査で縄文土器・石器が出土 (※1) 二の丸跡の発掘調査で縄文土器・石器が出土 (※2)
	(弥生時代)	追廻地区の発掘調査で弥生土器が出土 (※3)
	(平安時代)	二の丸跡西縁部に窯が築かれた可能性 (※4) 追廻地区の発掘調査で奈良・平安時代の瓦が出土 (※3)
1282	弘安 5	扇坂付近に板碑が造立されたと伝わる (その後仙台大神宮へ移設と伝わる) ※5
1287	弘安 10	二の丸西縁に板碑が造立される
1302	正安 4	二の丸西縁に板碑が造立される
1351	観応 2	岩切城合戦を記した文書に「虚空蔵城 (楯)」の記載 (仙台城の場所にあった山城か?)
1600	慶長 5	12月伊達政宗が縄張り始めを行う
1601	慶長 6	1月普請始め、12月大橋が完成する
1602	慶長 7	城がほぼ完成したと伝わる、大広間完成記事あり
1603	慶長 8	政宗が移徙する
1608	慶長 13	大和国より雲野 (榎森) 又右衛門が招かれ、政宗より城内に酒造のための屋敷地を与えられる
1609	慶長 14	政宗、懸作より「つるへ鉄砲」を見る
1610	慶長 15	本丸大広間が完成する
1613	慶長 18	政宗、大広間にてソテロと会見
1616	元和 2	地震により石垣、櫓などが被災
1620	元和 6	政宗の娘五郎八姫のため、西屋敷 (西館) が建てられる
1628	寛永 5	若林城が完成し、政宗が移る
1638	寛永 15	二代藩主忠宗が二の丸の造営を開始する
1639	寛永 16	忠宗が二の丸に移徙する
1645	正保 2	国絵図、城絵図を幕府に提出
1646	正保 3	地震により石垣、櫓などが被災
1668	寛文 8	地震により石垣が被災
1677	延宝 5	片倉家と津田家が屋敷替えを命ぜられる
1682	天和 2	幕府に城絵図を提出
1688 ～ 1704	元禄年間	四代藩主綱村が二の丸を改造する
1804	文化元	二の丸が火災で焼ける
1809	文化 6	二の丸再建

仙名城跡関連年表 (2)

1846	弘化 3	追廻から出火し、片倉家屋敷が焼ける
1849	嘉永 2	13代藩主慶邦が片倉家へ御成り
1868	慶応 4	仙台藩が新政府軍に降伏
1869	明治 2	藩籍奉還、二の丸に勤政庁が置かれる
1871	明治 4	廃藩置県、二の丸に仙台鎮台が置かれる
1873	明治 6	「全国城郭存廃ノ処分並兵營地等撰定方」で「存城」とされる
1876	明治 9	明治天皇の行幸
1882	明治 15	二の丸が火災で焼ける
1888	明治 21	東北鎮台が陸軍第二師団に改組される
1890	明治 23	大橋が鉄橋に架け替えられる
1902	明治 35	本丸跡に昭忠碑が建てられる
1904	明治 37	本丸跡に招魂社が建てられる
1920	大正 9	中門（寅門）破却
1925	大正 14	仙台市が軍から土地を借用し、青葉山自然公園を開園する
1930	昭和 5	八木山方面への道路が完成する
1931	昭和 6	大手門と脇櫓（隅櫓）が国宝に指定される、八木山橋が完成する
1935	昭和 10	伊達政宗公三百年祭、本丸に伊達政宗騎馬像が設置される
1938	昭和 13	大橋がコンクリート橋に架け替えられる
1939	昭和 14	招魂社が護国神社に改められ、拡張工事が開始される（～1942）
1945	昭和 20	仙台空襲で大手門、脇櫓、巽門が焼失、二の丸跡に米軍が駐留（キャンプセンダイ）
1953	昭和 28	青葉山公園開園
1957	昭和 32	キャンプセンダイが日本に返還される
1958	昭和 33	東北大学が川内地区に移転開始
1960	昭和 35	仙台市博物館完成
1963	昭和 38	大手門脇櫓再建開始
1964	昭和 39	本丸跡に伊達政宗騎馬像を再建
1967	昭和 42	大手門脇櫓が仙台市に寄附される
1978	昭和 53	宮城県沖地震が発生し、石垣や土塀などが被災する
1997	平成 9	本丸北壁石垣修復工事開始
2003	平成 15	国史跡に指定される
2010	平成 22	二の丸跡の一部が史跡に追加指定される
2011	平成 23	東日本大震災発生が発生し、石垣や土塀などが被災する
2012	平成 24	本丸跡の一部が史跡に追加指定される

- ※1 仙台市文化財調査報告書第 282 集『仙台城本丸跡 1 次調査 出土遺物編』（2005）
- ※2 東北大学埋蔵文化財調査年報 4・5（1992）、6（1993）、8（1997）、18（「2005」
- ※3 仙台市文化財調査報告書第 350 集『仙台城跡 - 追廻地区遺構確認調査 - 』（2009）
- ※4 東北大学埋蔵文化財調査年報 3（1990）
- ※5 「仙台金石志」（吉田友好 享保 4 [1719]）によると川内筋違橋の大松沢氏屋敷にあるとされている。（「仙台市史 特別編 5 板碑 198」